

第44回SSN勉強会

大原則彦（南房総市）

日時：2009年6月23日（月）10：00～15：00

実施場所：千葉県立中央博物館研修室 参加者：23名

午前「自然観察スタンプラリーの企画と運営」 講師：渋谷孝子氏（会員）

午後「自然・文化の調和・共存と地域の生物多様性を探る博物館」

講師：中村俊彦氏（県立中央博物館副館長）

南房総市の大原則と申します。古くからいるのに、仕事が観光地での宿泊業という事もあり、なかなか伺えないのが実状です。SSNは平日が多く、今回初めて参加させていただきました。こちらは、都市部と違い自然が豊かと言えますが、豊か過ぎるのも困りもので、この時期は草刈に大忙し、木も伐採しなくては、生活に支障が出るほどです。とはいえ、ある意味自然は私にとって商品でもあります。観光業では、里山、里海を求めて多くの方が南房総へきます。また、最近、長柄町で貸し山林の事業も立ち上げ、まさに、自然と共生することを実践しているといえるかも知れません。

SSNは今までと違い、遊びを通して自然の大切さを伝えるという、とても、実践的で面白い試みの中に感じました。とかく観察会という理科の授業のように、知識の説明になりがちですが、SSNは、子供や一般市民には、とても受け入れやすい手法の様に思います。また、自分を振り返って見ても、はじめて自然のおもしろさを感じたのは、魚釣りであり、草つきみであり、草花遊びだった気がします。

自然保護の活動も元は狩猟愛好会の人たちが起源と聞いています。美しい自然だけを保護するのではなく、自然と共生することの大切さを感じ、さらにその様な生活を実践する事が人の未来のあるべき姿のような気がします。SSNがそのきっかけとなってくれればと思います。大げさな話になってしまいましたので、話を戻します。このスタンプラリーという企画は実は観光業でも古くから使われており、南房総でも、寺社めぐり、観光ポイントめぐり、サイクリングコースめぐり、などに今でも使われています。この自然を対象としたスタンプラリーも南房総の観光企画に活用できそうです。最近の観光は着地型観光商品という新しい発想を導入しており、その土地の地域性をそのまま商品にするという傾向にあります。少人数のツアー企画としてSSNの手法が有効かもしれません。その時は、よろしく願います。さらに、学校だけにとどまらず、観光の分野の研究開発もできれば、裾野も広がると思います。県南地域は、この会でも活躍されている方が住んでいる自然豊かな興味深い地域です。

これからも、できる限り参加したいと思います。また、こちらにおいでの際は、ログキャビン ナチュレという手作りの丸太小屋のコテージを運営していますのでお声をかけて下さい。

<自然観察スタンプラリーのポイントで提供する自然体験やクイズのヒント> 渋谷孝子

- 1)「大地でお昼寝」ゴザを敷いた上で寝転んで空や木の梢を見上げる。
- 2)「森の小人さがし」葉痕さがし。
- 3)「○△□？」草の断面の形を当てる。
- 4)「耳をすませば…」鳥の声、虫の声、風の音…。
- 5)「縄文味見体験」ドングリ、オニグルミなど自然のものを味わう。
- 6)「クンクン探検」用意したにおいと同じにおいの草を探そう。
- 7)「ヒツキムシを探せ」3種類以上服に付けて来る。
- 8)「誰でもピカソ」草や花の汁で紙に絵を描く。
- 9)「オオバコ相撲」「イチヨウのネズミ」などの草花遊び。
- 10)「笹舟流し」ササブネを作って流して遊ぶ。
- 11)「虫の目体験」野外用顕微鏡で花、植物の毛、花外蜜腺を見てみると…。
- 12)「温度調べ」湧水の温度、森と広場の温度の違い調べなど。
- 13)「木登り体験」未経験者は低い枝でも感動！
- 14)「きこり体験」木(丸太)をノコギリで切る体験。
- 15)「ダンゴムシレース」マーカーペンで目印をつけたダンゴムシでレースを。
- 16)「樹と友達になろう」一本の木を決めて、抱きついて、木と会話してみる。
- 17)「秋の歌」ガマの穂をマイクに見立てて1曲披露。…等々